

ネオシネジン Neo-synesisin  
1号 (1mg/1cc)  
2号 (5mg/1cc)

フェニレフリン  
phenylephrine ( $\alpha$ )

【適応】 急性低血圧あるいはショック時の補助治療、発作性上室性頻拍、(添加で)局所麻酔薬の作用延長

【用法】 低血圧や頻拍に対して

★1号は10ccに希釈

★2号は50ccに希釈 (0.1mg/1cc) 後に1-2ccずつ静注

★(シリンジ) 原液 $0.024 \times$ 体重 (kg) ccを

生食で全量20ccに希釈

$0.1 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{分} = 1\text{mL}/\text{時}$ になる

【特】  $\alpha$  刺激剤で  $\beta$  作用はほとんどない

腎動脈を収縮 (腎血流 $\downarrow$ )

・反射性徐脈になる (発作性上室性頻拍の治療になる)

ボスミン  
Bosmin (1mg/1cc)

エピネフリン  
epinephrine ( $\beta > \alpha$ )

心停止 (心停止の間、3-5分ごとに繰り返す)

★1.0mg (1A) 静注後、20ccの生食などで後押し

★気管内投与は1回2-2.5倍量

【注】 心腔内投与は心停止で静注不可能な時のみ

★小児: 0.01mg/kg静注

アナフィラキシーショック

★[呼吸器症状] 0.3-0.5mg 皮下または筋注

★[低血圧, 徐脈]

10倍希釈 (0.1mg/cc) し1ccずつ静注

★小児: 0.01mg/kg 皮下または筋注

気管支喘息 (必要ならば20分ごとくりかえす)

【注】 高血圧, 心疾患には用いない

★0.3-0.5mg (1/3A-1/2A) 皮下注

★小児:  $10 \mu\text{g}/\text{kg}$ を皮下注 最大量0.5mgまで

異常低血圧時の昇圧

★(シリンジ)

$10\text{A}$ を希釈して全量  $1668 \div$  体重 (kg) mLにする

$0.1 \mu\text{g}/\text{kg}/\text{分} = 1.0\text{mL}/\text{時}$

0.01-0.02 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$	主として $\beta$ 作用
0.02-0.1 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$	$\alpha + \beta$ 作用
0.1-0.3 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{分}$	主として $\alpha$ 作用

【併用禁忌】 ハロゲン化麻酔薬 (不整脈)

三環系抗うつ薬 (アドレナリンの作用増強)